



太田 めぐみ

OHTA Megumi

アシックス
執行役員CSR統括部長

サステナビリティをビジネスの力に ～企業戦略の根幹に据え、 持続可能な成長をめざす～



当社は1949年、創業者・鬼塚喜八郎が戦後の荒廃した神戸の様子を見て、スポーツを通して青少年に希望を与えるという想いで興した会社です。アシックス(ASICS)という社名は、古代ローマの風刺作家ユベナリスの言葉「Anima Sana In Corpore Sano(健全な身体に健全な精神があれかし)」に由来します。社名自体が創業哲学であり、世界中の人々にスポーツを通して心身ともに健康で幸せな生活を実現してほしいという願いを込めて企業活動を行っています。

現在、当社のサステナビリティ活動として、「環境への配慮」と「人と社会への貢献」という2つのテーマに取り組んでいます。これらに企業としてどう向き合い、どうビジネスの中に取り込んでいくかが鍵になります。

「環境への配慮」については、特に気候変動が深刻な問題となっていますが、CO₂削減と循環型のづくりに力を注いでいます。その施策の一つとして、2030年までにシューズやウェアのポリエステル材を再生ポリエステル材に100%切り替えることを表明しています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて来夏に延期となりましたが、当社はスポーツ用品カテゴリーで唯一のゴールドパートナーとして大会を支えます。循環型のづくりの一環として、日本全国から回収した思い出が詰まったスポーツウェアを日本代表選手団のオフィシャルスポーツウェアに再生するASICS REBORN WEAR PROJECTを実施しました。来年、表彰台に立つ選手とともにご注目いただきたいです。

「人と社会への貢献」では、15年ほど前からサプライチェーンでの人権問題に取り組んでいます。当社は海外での生産比率が非常に高いため、ベトナムやインドネシアなど海外の委託生産工場における人権についてはしっかりと

管理ができるよう、委託生産工場と連携しています。

また、2018年から「Right To Play」という国際NPOと協力し、レバノンに暮らすシリア難民の子どもたちにスポーツのプログラムを提供するプロジェクトに取り組んでいます。「心身ともに健康的に」と言葉でいうのは簡単ですが、これは永遠の課題であり、将来世代にわたりスポーツを通してそれを実現する機会を提供していくことは大きなチャレンジだと思っています。

ビジネスとサステナビリティを結びつけることは難しい課題ですが、お客さまと投資家、2つの観点から流れが来ていると感じます。お客さまとしてZ世代といわれる若者たちは倫理的なものづくりをしている企業の商品を買いたいという傾向が非常に強いですし、投資家はESG投資に高い関心を示しています。こうした流れを追いかけて、今後もサステナビリティを経営の中心に据え、持続可能な成長につなげていければと思っています。

私自身の話をしますと、2014年から当社のダイバーシティ&インクルージョン推進担当リーダーとしても活動しています。また2018年からは、関経連の労働政策委員会の副委員長として、女性活躍推進や働き方改革といったテーマの委員会活動に参画しています。関経連の「女性のエンパワーメントのための米国派遣プログラム」には講師として参加し、多くの刺激と学びを経験した参加者の皆さんと交流して、私も楽しく学ばせていただきました。

私はいま神戸に住み働いていますが、関西は本当に住みやすく、そこに暮らす人々も人間味あふれる素敵なお方が多くて、働きやすい地域だと実感しています。このポテンシャルにダイバーシティ&インクルージョンへの意識が加われば、関西はさらに素晴らしい地域になるとと思います。(談)